

現実から遊離しない 芸は売るのが



歌手・美輪明宏さんに聞く

今月の「ときめきインタビュー」はこの人、シャンソン歌手・美輪明宏さん。シンガー・ソングライターの元祖として「ヨイトマケの唄」他多数の歌を発表。美輪明宏さんのシャンソンは常に弱者を唄い、味方になり、溢れる愛を注ぎこむ。演劇活動も華々しく、その才能を世界的に知られた寺山修司、三島由紀夫さんらと主演の「毛皮のマリー」「黒蜥蜴」は大ヒット。

美輪さんの明解な主張は多くの人々を魅了している。そんな美輪さんにインタビュー。インタビューはコンサートでもおつきあいのあるステージコーディネーター・藤本洋氏(コース・シテ、代表)。百合の香りが部屋中を包む美輪さんの「白毛」。飛び出す痛快な時評が気持ちいい一時。

藤本 三回に及ぶ平和コンサートへの出演ありがとうございます。

美輪さん、色気はいいですね。多岐な活動の中でも、美輪さんといえはなんといってもシャンソンですが、シャンソンの魅力ってなんでしょう？

大人の歌

美輪 ひと色じゃない、と聞いてますね。シャンソンのジャンルもいろいろあるけれど、リズムが豊富で、内容が大人だということなんです。やはり文化ですからね。国のいろいろなものが醸成してきているんですよ。映画でもそうです。フランスのものも知的な大人ですよ。

ヨーロッパではまたそういうものがないと、相手にされませんからね。「ル・モンテ」にしても「リベラシオ



▲藤本 洋氏 (ステージ・コーディネーター)

ン)にしても、「フイガロ」という大衆紙にしてもインタビューで、まず聞かれるのは政治問題ですよ。社会人としてのもの考え方がしっかりないと相手にされないんです。

放送禁止歌「従軍慰安婦」の歌

藤本 そのごとはシンガー・ソングライターとしての美輪さんの作品の中にもはっきり表れていますね。日本では

やっと表にできましたが、そのずっと以前に「従軍慰安婦のうた」もうたうておられますが。

美輪 それがみんな放送禁止歌になってしまっ(笑)(藤本 笑)

美輪 あの歌なんて二回うたっただけ、すぐ禁止。右翼からの突き上げを避けるための「自主規制」だね。でも私、ライブでうたうてます

が、若い方がみんな泣いてますよ。

「ヨイトマケの唄」もずいぶんもたんですよ。NHKはよかったです。TBSはだめ。あれは、貧しい子どもが汚いといふことだからだめだなんて変な「自主規制」で、バカな話でしょ。お話にならない。

大体、そういう所のディレクターというのはエッセイテリで、「この唄で励まされた。胸をほって生きられるようになった」と言う労働者の

声が聞えないんです。藤本 「従軍慰安婦のうた」はいさな人がうたうてますね。

美輪 ええ、うたいたいと言ってきたんです。

問題意識として手渡す歌を藤本 日本でああいう歌はなかったですからね。

美輪 私、思いますのに、「花はどへ行った」という歌がありますね。反戦歌とは言うけれど、歌詞が抽象的すぎる。もてかしい歌ね。

歌はいろんな人が聞くものなんです。文字に親しんだインテリばかりが聞かなくていいんです。本なんて読めやしない、まして、詩なんて読んだことないという人たちにまず直截的にパッと問題意識として渡す歌でなければ、その代わり放送禁止にされまっせ(笑)。

私の戦争反対の歌「ふるさとの空の下」や「亡霊たちの行進」にしても、みんな直截的なことを使っています。

(4、5面つづく)

今週の記事

☆サトウハチロー生誕90年(藤田圭雄) 3面

☆「ピアノで歌を考える会」(兼松千里) 7面

☆【連載】

「ミュージック・トゥデイ」(日下部吉彦) / 「今週の音楽会評」 - 合唱団美樹(渡辺昌子) / 「大空びっぴきびー」(RANKO) / 「空を見てますか」(池辺晋一郎) / 新連載「イキイキ和太鼓らいふ」

☆「食は訴える」(三輪純永) 8面



来年の仙白の日本のうたごえ祭典準備で東北新幹線に乗る機会が多くなった。その車窓から見る田んぼには、作況指数標準以下を示す白い立札がほとんどの田んぼに立っていた。

その田んぼのあちこちの広い休耕田(減反で稲は植えてない)に雑草が生い茂っているのを見ながら昨年見た「農業と米の自由化」テレビドキュメントを思い出した。

秋田の四人の農業青年でつくるフォークグループ「魚石」がものすごく広い休耕田にバンドをセットし「しほればしほるほと出るのは豆油と百姓の年貢といわれ、それでも雑草のように生きてきた百姓、今の百姓と同じさ、今の俺と同じさ同じさ切々と歌う姿であった。

今、大凶作とコメ不足が深刻な問題となっているが、天候不順で凶作になっても心配がないようなゆとりのある備給計画を作って対応すれば、コメ不足は起こらなかったはず。相次ぐ減反のおしつけと生産者米価の引き下げで農家の生産意欲を奪ってきたからだ。

前出のテレビドキュメントは、農業保護の削減に反対するアメリカの市民と農民の協同でファーム・エイド(農民救援コンサート)に九万人が参加、十二億円のカンパが集まったと伝える。来年の祭典めざし、東北で「ファーム・エイド」できないだろうか。(志)